



運動会の感想から

6月1日(日)、雨のため順延された第78回瑞江中運動会が開催されました。生徒たちの「一瞬懸命」(運動会スローガン)がたくさんつまった、成長を感じるとても良い一日になったと思います。ここで学んだことを是非これからに活かしていきましょう。多くの生徒が思いがこもった感想文を書いてくれましたが、ここで一部紹介します。

「努力」 A組

私はこの運動会で努力は報われるということを学べたし、実感することができました。運動会練習が始まった最初の頃は、男女で運動会に向けての熱意に差ができてしまい、そのせいでたくさんぶつかることもありました。そのぶつかり合いは運動会が近づくにつれ、激しくなっていき、昼休みの練習もA組が遅れてスタートするということがありました。学年練習ではムカデ2位、全員リレー1位から3位と順位が落ちたりもしました。不安を抱いたり、ショックを受けている人もいましたが、諦めるということはせず、全員リレーの走順を変えてみたり、ムカデはお互いにアドバイスし合ったり、努力し続けました。ダンスでも、最初は何でダンスなんかしなきゃいけないのかという言葉がたくさん聞いてきましたが、それでもなんだかんだ一生懸命ついてきてくれました。

そして当日、練習の時ぶつかったことが本当かと疑うほど、みんな一人一人が努力し、頑張ってくれました。そして全員リレーで見事1位を取ることができました。ムカデは、女子がしてはいけない反則をしてしまい、男子にも迷惑をかけてしまったと思います。でも、そこで女子を責めることはせず、逆に励ましてくれました。本当にそれがありがたかったです。ダンスも、親が見ているからといってだらっと踊ることをせず、練習と同じように踊ってくれました。学級対抗もクラスの代表として、精いっぱい走ってくれました。大縄も1位と1回差で負けてしまいましたが、過去最高記録を出すことができました。

そして成績発表のときになり、結果は惜しくも2位でした。優勝はできませんでしたが、ここまで団結力が高まったのは絶対にみんなの努力のおかげだと思います。だから、その部分は努力が報われたと感じました。3年A組にとって大切な思い出になったと思います。

「中学校最後の運動会」 A組

あっという間に終わった僕の中学校最後の運動会では、最終的にクラスの仲間と協力して、全力で取り組むことができました。運動会練習が少しずつ始まり、最初は息も合わず運動会当日が大丈夫かと思ったけれど、約2週間すれ違いや熱量の違いで揉め事などがあつたけれど、特に、先生や運動会リーダーやダンスリーダーの言葉を聞いて、自分ももう少し頑張ってみようと思ったり、みんなもそれを聞いて前向きに練習したりしていることが印象に残りました。また、前々日も前日も雨が降り、当日運動会リーダーなどが頑張つて線などを引いてくれたおかげで、中学校最後の運動会が良い思い出になったんだと感じました。

当日、全員リレーでは、みんなの気持ちがこもったバトンが2位と差をつけてゴールしたのを見て、練習してきてよかったと感じました。大縄跳びでは、最初は息が合わず跳べなかったけれど、本番に近づくにつれたくさん跳べるようになり、結果は2位で1位と1回差で負けてしまったけれども、みんな一生懸命にたくさん回数を跳ぼうとしていて、とても良いクラスで運動会を迎えられたと感じました。大ムカデでは、練習の際うまくいかなかったことから、並び順を変えてみるなどして、当日は女子から男子へとタスキを繋いでいき、女子の応援もあつて1位をとれたのだと思いました。減点はされても本番で実力を出し切ったA組の団結力はとてもすごいと思いました。最後に、中学ラストの運動会が、勝つても負けても笑つて美しく戦えたので、最高の思い出となりました。

「中学校最後の運動会」 B組

僕は、今回の運動会を一生忘れることのできない最高の思い出にすることができたと思います。僕は、今回中学校で初めてリレー選手や、全員リレーの一走などの大役を任されました。なので、「絶対にクラスの役に立つ」という思いで、部活の走り込みなどを頑張りました。ただ、ムカデ競走や大縄などの競技で最下位をとってしまったたり、休みの人がどんどん増えてたりと、運動会に対する不安はとて大きくなりました。だけど、運動会リーダーや先生の「絶対に勝とう」という熱い言葉を聞いて、「まだ諦めてはいけない」という思いが強くなっていきました。そして、クラス全員がその気持ちを受けとり、誰も勝ちを諦めずに前を向いて練習をし続け、どの競技もどんどん上達していきました。そして運動会当日、メンバーが欠ける中で優勝を目指して本気で競技に取り組みました。なかなか実力は他クラスに及ばなかったけれど、他クラスがミスをしたりなど、先生の「当日は何があるかわからない」という言葉を確信させる出来事も多くあり、かなり僅差の勝負となりました。結果としては最下位となってしまいました。しかし、全力で戦ったので、悔いは全くありませんでした。

この運動会を通して、「3-B」の絆はとて深まったと思います。どんなことにも全力で取り組み、このクラス・学年で、中学校最後で最高の思い出をもっとたくさん作り上げていきたいです。

B組

私は、約2週間前の練習では、ほぼ毎回悔しい思いをしていた。しかし、運動会リーダーが言っていた、「伸び代しかない」というポジティブ思考で考えるようになってから、約1週間で大きく変わったと思う。特に大ムカデ競走では、初めて全体のはやさを合わせることができ、転ばずスムーズに進めるようになった。それがとてもうれしく感じられた。

今年から取り入れられたダンスでは、他クラスの応援に熱が入った。ライブに行っているかのように周りも盛り上がり、何より友達の踊っている姿がとてかっこよかった。普段は見られない一面を見ることができ、午前中の疲れを回復することができた。

今年は、中学最後の運動会もあってか、笑顔や涙をたくさん見た。やりきることができ、楽しむことができたが、やっぱり「悔しい」が最後に残ってしまったことが悲しく感じられる。

運動会リーダーによる最後のスピーチには、各個人の思いがしっかりこもった感動のスピーチだった。どのような思いで運動会に臨んだのか、私たちの感じた悔しさよりはるかに悔しく感じたのだろうと身をもって感じた。「このクラスで良かった」と言ってくれた運動会リーダーがとて輝かしかった。きっと、他のみんなも、「この人たちが仲間良かった」と各々心で感じていると思う。

私は、今年の運動会が、今までの運動会の中でいちばん思い出になる、感動した運動会だったと自信を持って言える。

「運動会で学んだこと」 C組

僕は今回の運動会で二つの大事なことを学びました。一つ目は一生懸命頑張ることの大切さです。僕は瑞江中学校最後の運動会は絶対に勝ちたいという気持ちがありました。そのためいつもの運動会以上に一生懸命に取り組みました。また、走り方を教えてもらったり、けがをしないため無理をしなかったりと自ら工夫して練習に参加しました。そのため運動会本番ではクラスの足を引っ張ることなく活躍できたと思います。優勝という結果を前に自分の頑張りが報われたと感じました。もし運動会の練習をあんなに頑張っていなければこんなにうれしい気持ちにはならなかったでしょう。そう考えると、一生懸命頑張ることは大切なんだなあと改めて実感しています。

二つ目はみんな協力することです。運動会での優勝はもちろん僕の頑張りのものではありません。クラスの協力の賜物だと思っています。例えばリレーで最下位になってしまったときや練習でうまくいかなかったときに、クラスの運動会リーダーなどの声援がなければ優勝はありえませんでした。また大縄のときでも、回し手と跳び手が協力して跳び続けなければ一位になれなかったでしょう。このように運動会ではクラスみんなの協力が不可欠です。ですが、みんな協力できたときの達成感はとて大きいです。こんなふうに協力したからこそえることができる達成感があります。だからこそ協力して何かをするということはとて大切だと思います。僕は運動会で一生懸命頑張ることとみんな協力することの大切さを学びました。この経験を無駄にせず、これからの人生でも活かしていきたいです。

「運動会を終えて」 C組

今年の運動会は中学校最後がこのクラスでよかったと思えた最高の運動会でした。私は、運動会練習が始まる最初のころは、「勝っても、負けても、最後には楽しかったと思えばいい」とあまり勝ち負けにはこだわっていませんでした。でも毎日みんなと練習したり、話し合っていくうちにこのメンバーで勝ちたい、頑張りたいと思えるようになっていきました。

運動会当日、障害物競走やメドレーリレーなど個々の種目が終わり、最初の学年種目「全員リレー」が始まりました。全員リレーはみんなバトンをつないでゴールしましたが、反則があり、結果は三位。すごい悔しかったけどみんな声掛け合って気持ちを切り替えて挑んだ「大縄跳び」ではみんな気持ち一つにして八十回も跳ぶことができました。すごくうれしかったです。しかし「ムカデ競走」で惜しくも二位。そして、ここで勝たなくてはC組は負けてしまう、という思いから始まった「学級対抗リレー」。負けてはいけないというプレッシャーと、抜かされないかという不安でずっとドキドキしていました。そしてついにバトンが渡され走り出した瞬間、C組の席から名前を呼んだ応援が聞こえました。そこから自分に自信がつき、全力で走ることができました。その後、一位のまま渡したバトンをアンカーの子がゴールまでつないでくれました。すごく安心したし、うれしかったです。結果C組は「優勝」をすることができました。みんなたくさん練習をして、声をかけあつてとれた優勝がとてうれしかったです。大縄のあの切り替えも、学級対抗のあの応援も、C組だからできたものだと思っています。本当に最後のクラスがC組でよかったと心から思います。